

300km/hの証言」



過激なチューニングの世界、その1つの到達点が、最高速300km/hだろう。で、ひと言で300km/hと言っても、そこはフツーでは体験できない異次元のハズ。その異次元を自ら体験した男達のナマの声を聞いとくれっ。

証言1 RE雨宮 雨サン談 体験300km/h!

「自ら走ってセッティングをする」と語る雨サン。その技術はレースで裏付けされているだけに信頼性も高い



「300km/hのスピードに目がついていくか!? こんなところが勝負だっ」

スピードの感覚って、年をとって来るとドンドン衰えてきちゃう。だから、何時だって目を慣らすことが、300km/hの世界を見るには必要なんだ。

とくに最近では、いきなりイクよりも、除々に目を慣らしてから300km/hの世界へイクようにしているんだ。つまり、250→260km/hで、一度、目を慣らしてからやるコレって、「雨宮式トレーニング」かなア。

そして、いつも高いアベレージにも慣れておくことも大切だ。オフロードだけ、高速じゃ260→270km/hぐらいは出してるネ。

こうなってくると、やっぱり、足回り、が大切になってくるんだよね。ホント。

証言3 マインズ 新倉氏談 体験300km/hオーバー

「250km/hじゃタバコが吸える。けど300km/hはハンパじゃない!」

100km/hの世界はだれでも知ってますよね、それよりも3倍上の世界が300km/h。

細かく分けていうと、200→250km/hではタバコを片手に、多少の怖さは残ってもノーマルサスで可能な世界。ところが、250→300km/hというのは、風きり音が物凄くてガラスが踊りだす始末。320km/hを超す世界ではバタついていてドアの隙間から空が覗けてしまうほど、空気との戦いは激しくなるんですね。

ミラー一つが、抵抗となる。それが300km/hの世界なのです。

車を信頼して慎重にドライビングすることが大切になりますね。

証言2 トライアル 牧原氏談 体験300km/hオーバー

ナンバー付きチューンドカーを初めてオーバー300km/hの牧原さんに作り上げたトライアルの牧原さん。関西チューニング界の雄だ!



「はつきり言ってる心配事が頭をよぎる! その時はメーターを見て落ち着く!」

クルマの性能が良くなって、トータル的にスピードも出るようになってくる。この積み重ねで、目が慣れていったんで続けてやってきたら300km/hの世界だった、というワケ。

その時に……一番落ち着くってゆうか安心できるのは、前を見ながらいかの間見る。メーター。なんだ。そーしないと、ネジの締め忘れはないとか、ホースは抜けかないだろうかなんてゆう心配事がいっぱい出てきちゃう。しかし、そんなことも200km/hまで。それを過ぎると、あとは一気にアクセルペダルを踏み込むだけやね。そーすれば自然に、クルマが300km/hの世界へ連れていってくれる。

「その昔は、第3京浜がメッカだったね」

やはり、どこかにネジをはずしてこないと入れない世界だね。なかには、谷田部を1周しただけでタイヤのブロックがなくなっちゃう、なんてヤバイクルマだってあるんだ。それでも出せる! 昔だったら第3京浜で160km/h出して喜んでた時代と、谷田部で300km/hってゆうのも同じように思うけどね。



山田昇▶チューンドカーからノーマルカーまで幅広く評論活動を行なう。本誌10月号「山田昇のベストチョイス」連載中。

オレ達のはみ出し最高速に一言



エンジンからコンピュータ、足回りまでオリジナルパーツでのチューン展開を図る新倉サン。神奈川のチューンフリークの強い味方だ